

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792600035		
法人名	社会福祉法人 善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 中城愛誠園		
所在地	沖縄県中頭郡中城村字当間289-5		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_006_kani=true&amp;JigyosyoCd=4792600035-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=006">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_006_kani=true&amp;JigyosyoCd=4792600035-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=006</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年1月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中城湾を一望できる高台に位置し、周辺を緑に囲まれた環境の中で、入居者は日頃から景色を眺めたり散歩をして気分転換を図っている。施設内はバリアフリーで、入居者が安心して有する能力を発揮して、家事や掃除に参加できるようになっている。また、本人がしたい事に耳を傾け、ドライブや買い物、市民図書館に出掛けDVDやCDを借用して、皆で楽しく鑑賞したりと、常に入居者が快適に生活が送れるよう支援に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「今出来ることを大切に・・・」を掲げ、住みよいホームの環境整備を利用者、職員全員で取り組み、昼食後に台所の片づけ、食堂兼ホールや廊下の掃除は利用者の習慣となっている。日常生活動作も本人が出来ることは介護計画に反映し、残存機能を活かす支援を意識して実施している。食事も3食事業所で作り、利用者は買い物や下ごしらえ、食器洗い等に参加している。年2回外食(昼食)も計画して食事を楽しむ工夫をしている。利用者の希望や見学等で週に2~3回外出支援している。屋外に出かける事で生活リズムの確保や五感刺激、見学時に歩くことで体力維持に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成28年3月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できるよう玄関前に掲示し、理念に沿った運営を目指して、管理者と職員が情報を共有している。	理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえて職員と一緒につくりあげている。日常生活の中で、利用者の残存機能を活かした支援を行い、日々のケアやミーティング等で、時には事例を通して確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺には住宅が乏しく、近隣との交流は難しい状況。北上原自治会への加入を検討中で、来年4月に実現する。現在は隣接するデイサービスに通う利用者や交流したり、入居者の所在地である自治会から、行事案内があった場合参加している。また、地域のスーパーに買い物に出掛けて交流の機会を得ている。	事業所周辺を散歩中に、工場の方とは挨拶を交わすが近隣住民との交流は殆どない。隣接のデイサービス利用者や地域のスーパーに定期的買い物に出かけて地域の方と交流している。事業所を知ってもらう機会としてパンフレットを地域にポスティングしている。	地域社会とつながりながら利用者が当たり前の暮らしを続けられるよう、近隣住民や地域の方との交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民あるいは他市町村より電話での相談があった場合、また見学者に対して、認知症に対して説明している。今年度、民生委員との交流会があり、その際認知症への理解や支援について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催して、入居者の近況報告や業務の報告を行っている。各推進委員から助言をいただき、サービスの向上や入居者確保に向けた取り組みに活かしている。	推進会議は行政、利用者(2回)、地域の方が参加して年6回開催されているが家族の参加は確認できなかった。会議は、入居者確保に向けた提案もあるが、事業所の状況やヒヤリハット、外部評価等の報告が主となっている。	運営推進会議の意義を踏まえ、家族にも理解してもらい利用者や家族の参加に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課の窓口担当より入居相談の依頼があったり、村主催の行事や研修会への参加呼びかけがあったりと、日頃から連絡を取り協力関係を築いている。	村担当者とは、運営推進会議で情報交換している。村の広報紙に事業所の紹介が掲載されたり、行事、研修等の案内を直接事業所まで届けるなど、日頃より連絡を取り合い協働関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は一切施錠を行っておらず、帰宅願望や不穏による徘徊等には、職員が付き添い散歩を行っている。身体拘束も一切ありません。	管理者、職員は身体拘束をしないケアに努め、家族にも理解を得ている。立ち上がり時にふらつきのある方には夜間のみセンサー使用で転倒がなくなった。不穏や帰宅願望には利用者に合わせて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的虐待、放棄等、あらゆる虐待が起こらないよう、管理者・職員がミーティングで話し合い、確認し合い防止に努めている。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見制度について学ぶ機会を持っていないが、職員がいつでも見れるように関係資料を置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に文書を確認してもらいながら、内容を口頭で説明して同意を得ている。介護保険改定等あった場合は、改定後の書類を郵送したり、面会時に直接説明して、ご家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接の際に、直接家族が意見や要望を気軽に話せるように心掛けている。また、電話による要望もあり、職員間で要望を確認し合い実践している。利用者からも同様の対応を取って、意見や要望を聞いている。現在、家族に代わって受診対応をしたり、訪問カットを利用して、散髪を行っている。	利用者は日常生活の中で直に、意思や思いを訴え、「家に帰りたい」「電話してほしい」には家族と相談して対応している。家族からは面会時や行事の時、声かけして意見や要望を遠慮なく話してほしいと伝えている。意見はケアに関することが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	これまで通り、職員の意見や提案など、気付いた点は職員ミーティングで話し合い、業務の改善や向上に活かしている。	職員からは、ミーティング等で意見、要望を聞いている。職員から「利用者と一緒に食材の買物に行くため、混雑しない曜日(日から水)に変更」の意見を反映している。また、「職員を増やしてほしい」の要望は法人に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士習得者を本採用としたり、改善手当を引き上げる等、あるいは臨時雇用期間2年目から、業務態度・内容の良好な職員を本採用にしたりと、やりがいや向上心の持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	何名かは法人外の研修に参加してもらったが、その間の職員配置は厳しいのが現状である。法人内外の時間外の研修には、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者と交流する機会はあるが、外部の同業者と交流する機会は、認知症研修に参加した際、情報交換する以外にはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始に先立ち、本人の生活歴など基本情報を把握して、本人が安心した環境のもとで過ごせるよう、職員間で話し合い、本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のカンファレンスで家族からの要望を十分に聞き取り、配慮した上で、施設の対応をわかりやすく、納得されるまで説明して、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでに歩んできた生活環境や病歴等、本人や家族から聞き取り、今何が必要か職員間で話し合い、今必要なサービス、今後必要となるだろうサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の下ごしらえ、食器洗い等、入居者と職員が協力し個々の能力に応じた作業をすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、入居者と家族がゆっくり触れ合うことができる時間を作り、近況を報告し家族と情報を共有している。ホームだよりで活動状況を確認してもらったり、行事に参加してもらい、活動内容を体験してもらおう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ねて馴染みの場所へ出掛けたり、隣接しているデイサービスと交流して、幼馴染や同地域の知人と触れ合えるように努めている。	地域社会での関係性の把握は、家族や本人から聞いている。新たな情報は記録して、家族に了解を得て支援できるよう努めている。地域の敬老会に家族と参加したり、ドライブ時に自宅近くを通ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の性格を把握し、皆で一緒に食事を摂ったり、一緒に家事を手伝ったり、コミュニケーションを図ったりと、入居者が孤立することのないよう支えながら、充実した共同生活が送れるよう支援している。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を送って、関係性を保っているが、相談や支援には至らない。家族から相談があったら、支援に努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの希望を理解し、職員間で共有している。「運動したい」「好きなものを観たい」「家に帰りたい」「家に電話して欲しい」等、希望は多岐にわたるが、出来るだけ対応できるよう支援している。	全員が思いや意向の表出が可能で、日々の生活の中で声かけして利用者の声を聞いている。利用者自身が楽しみを見つけて取り組んでいる。理解できない場合は、職員間で話し合い把握や支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日頃の会話や昔話、あるいは家族が面会に来た際、本人と一緒に生活していた時の思い出話等から、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者と職員が共に行動し、一人ひとりが一日のよう過ごすか職員は把握している。また日頃のバイタルチェックや排泄チェック表、食事摂取表から心身の状態を把握し、日頃から一緒に家事をすることで、有する能力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心して暮らせるよう担当制にして、入居者や家族、主治医から聞き出したニーズや意見などをミーティングで話し合い、現状に即した介護計画が作成できるようにしている。	担当者会議で本人や家族、介護職員と話し合い、今出来ることも反映した介護計画となっている。ミーティングや毎月のカンファレンスで職員は情報を共有し、半年毎のモニタリングを実施している。更新時や状態変化時に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の出来事を記録し、ケアの実践とその結果、工夫したこと等の情報を共有し、より良い支援となるよう介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や散髪、必要物品の買い物は、基本的に家族が対応しているが、諸事情や体調不良で家族の対応が難しい場合は、職員や管理者が対応するなど、その時々生まれるニーズに柔軟に対応している。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中城村の行事、自治会の行事、隣接するデイサービスとの交流を通して、他者とふれあい、豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がおり、基本的には家族が受診を対応している。家族には身体状況の報告や、職員が記した情報を手渡すなどして、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて職員が受診対応することもある。	入居前からのかかりつけ医を継続し受診は家族対応を基本としている。家族が難しい場合は管理者が対応している。受診時には、書面や口頭で情報提供を行い、結果等は申し送りや介護記録に記して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の受入れや訪問看護の受入れはない。隣接するデイサービスに看護師が配置されており、入居者の体調がすぐれない場合は診察してもらい、必要に応じて受診を促している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が見舞いに行き、病院関係者に入居時の状況や日頃のバイタルなど報告して、安心して治療ができるよう支援している。また、退院前にはカンファレンスに参加して、早期に退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化して医療面の比重が大きくなった場合は、入居生活が困難になる事の説明をして、家族の理解を得ている。その際は、同法人の特養ホームへ受け入れるなど、連携を図っている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針は明文化はされていない。契約時に、医療的ケアが必要になったときは特養ホームへ繋げる旨を、家族、利用者に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、応急手当や初期対応の訓練を受けていないが、急変時の連絡体制や初期対応については話し合っている。深夜帯に関しては、隣接する同法人の職員が交代でオンコール対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間を想定した消防訓練を行っており、入居者が安全に避難できる方法を、全職員が身につけている。地域との協力体制は築きにくいですが、隣接するデイサービスとの共同訓練は行っていきたい。	消防署協力の下、夜間を想定した避難訓練を1回のみ実施している。訓練の際に地域の方に協力願いの声かけは行っていない。また、災害時の備蓄等は準備されていない。マニュアル、職員連絡網は整備され、定期的に機器点検は実施している。	省令で年2回の訓練が義務付けられています。昼夜を想定した年2回の訓練実施と、地域の協力体制づくり、備蓄の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもある、その「人」を尊重するを常に意識し、日頃から言葉使いや接し方に注意を払っている。今後も接遇など、施設内で勉強会を行っていく予定である。	利用者一人ひとりに合わせた言葉使いや、尊厳を傷つけない声掛けに気を付けている。利用者の得意なことや出来ることを把握し食事の準備や、洗濯物たたみをお願いしたりしている。男性利用者は、食後のモップがけ等掃除の役割で力を発揮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自由に希望を表しやすい言葉掛けをして、可能な限り自己決定に応えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴日、入浴時間など、ある程度の日課を決めているが、入居者一人ひとりの生活リズムを優先して、それぞれの希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関しては本人に選んでもらい、職員が服装を確認して整える事はある。基本的には、本人の希望を尊重している。お化粧の習慣のある入居者には、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を理解し、職員と一緒に買い物に出掛けたり、下ごしらえを手伝ってもらったり、職員の作った食事を一緒に食べて楽しめるような雰囲気作りをしている。食器の片付けや洗いも、入居者が行っています。	3食とも事業所で調理している。利用者は、週1回食材の買い出しや下ごしらえ、下膳、食器洗いに参加している。食事を楽しむために年2回外食を計画して実施している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康状態に応じた食事量と水分摂取量を記録して、職員間で把握できるようにしている。一人ひとりの健康状態に応じて、みそ汁を昼食のみに提供するなど、栄養バランスに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの必要な入居者も含め、食後は毎回口腔ケアを行っている。力量に応じ一部介助行い、口腔内の清潔を保持している。歯ブラシやコップは1日一回熱湯消毒して、清潔を保っている。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在入居している皆様は、ほぼ排泄が自立しており、トレーニングパンツや尿取りパットの使用者はおりません。トイレの前に排泄チェック表を掛けてあり、排泄パターンを把握している。下着に便が付着していないか確認はしている。	利用者全員、トイレでの排泄が自立している。排泄チェック表をトイレ前にかけているが、事前声掛けや誘導は行わず、見守りに徹し、排泄記録だけ記し、利用者の状況を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事や乳製品(牛乳・ヨーグルト)を提供したり、水分をしっかり摂ってもらったり、軽体操や散歩をして体を動かしたり、自然に排便が出来るよう予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を決めて、午前中に入ってもらいが、本人の気分や体調に応じて変更をしている。本人が希望すれば、毎日入浴できるよう支援している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望に合わせて毎日入浴の習慣を継続している方もいる。残存機能を活かし出来ないところを支援するよう努めている。衣類の準備も本人に確認しながら一緒に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあり、本人の好きな時間に居室で休んでもらっている。ホールのソファや椅子に座ってウトウトされる方もいる。夜間不眠を訴え起きてくる入居者もいるが、無理強いはせず会話をしたり観察している。季節に応じて室温に配慮したり、寝具に替えたりして、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬は職員がセッティングし、効能・副作用・用法・用量が確認できるようにしている。毎回職員が手渡し、飲んだ事を確認している。薬が変更になった場合は申し送り簿に記入して、確認できるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力にあった役割(家事・買い物)を持ってもらい、喜びや達成感が得られるよう支援する。漢字ドリル・トランプ・パズル・ドライブ等、楽しんでもらい、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外出の機会を設け、出来るだけ季節の移ろいを感じられるよう支援している。入居者が昔懐かしい場所に行きたいと希望すれば、家族の許可を得て出掛けられるよう支援している。入居者によっては、時々家族と外食に出掛けられることもある。	事業所近隣の散歩を日常的に行っている。食材の買い出しやドライブ等に個別に対応している。週2~3回のドライブに出掛けている。季節行事の初詣や桜見学は全員で出かけたり利用者の希望を聞いて外出支援している。	



沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理することは難しいため、必要に応じて家族から金銭を預かり、職員が支援しながら買い物を楽しんでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきのやり取りの出来る入居者はおり、友人・知人から郵便が届くのを楽しみにしている。本人の希望に応じて、家族に電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に衛生面に配慮し、入居者はもちろん、家族や来訪者が不快にならないよう心掛けています。ホールにはソファを配置し、気軽に休んだり家族と会話を楽しんだりできる。季節の移ろいを感じられるよう、壁の飾りつけを変えたり、ツリーを設置したり、スナップ写真を掲示して、心地よく過ごせるよう工夫している。	ホールの一角に畳間があり、利用者がゆったり寛げる場所やソファも配置し家族と談話するスペースもある。壁の時計には時間が解り易いよう大きな数字を張る等工夫している。壁にはスナップ写真や利用者と協働で作成した貼り絵等を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファとテーブルが設置してあり、ソファで一人ゆっくり過ごしたり、時には他者と会話を楽しんだり、テーブルでは好きなテレビ番組やDVDを観たり、カラオケを皆で見て楽しんだりできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトは自由であり、使い慣れた物や写真などを配置している。テレビを置いて見たり、ポットを置いて好きな日本茶を楽しんだり、アイロン掛けをしたりと、居室で心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッドとタンスは備え付けで馴染みの物を持ち込んでいる。利用者の在宅時の環境や身体状況に応じて、ベッドからござにマットの方もいる。テレビや好みのお茶セットを持ち込み、居室で寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂場には、入居者がわかりやすいようにと表示がされている。施設内はバリアフリーで、動線には手摺が設置されており、安全に移動できるように工夫されている。洗濯干場へも段差なく移動ができ、入居者と一緒に洗濯干しが出来るようになっている。		